

【なぜ女子向けの企画なのか】

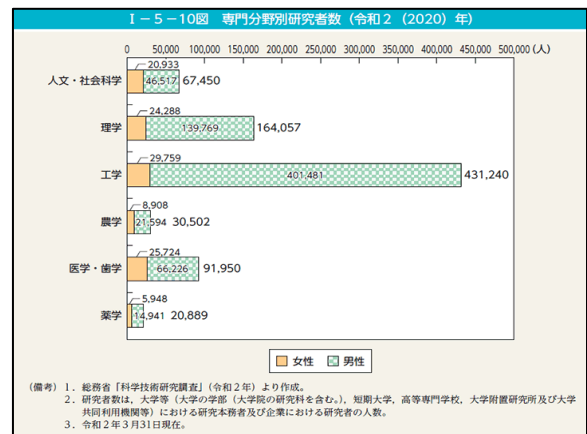
Society5.0の世界に向かい、ITをはじめとした工学スキルを持った技術者の需要はさらに高まっていくと予測されています。令和2年度から小学校においては「プログラミング教育」が必修化されました。プログラミング技術の習得を目的としたことではないとのことですが、いずれ小中学校で取り扱う内容は今よりも専門的なものにシフトしていくと考えられます。

中でも一番大きな変革として考えられるのは、これまで工学に触れることがほとんどなかった女子児童も工学に触れて成長してくる時代が来たということです。つまりあと数年のうちにITをはじめとした工学を学ぶ女子が増加することが予測されるということです。本校ではその受け入れ体制や進路についてすでに準備を進めているのです。

【工学女子の現状と課題解決】

現在、工学を専攻する女性が少ないことは世界的な課題となっています。世界的にみても未だ工学は男性の分野というイメージが根強く、日本においても女性研究者(工学)の割合は特に低く(男女共同参画局)、大学で工学を専攻する女性の割合も低いという現状です。

この課題の解決に向け、国立・私立の女子大の中には新たに工学部が開設され、工学教育を通して女性の活躍の場を広げる取り組みが始められています。本校においても今回のような女子向けのワークショップなどを企画し、成長段階の早い時期(小中学生の頃)に工学に触れる機会を作るとともに、お茶の水女子大学や企業との連携を通し、将来的に工学の世界で女性が働き続けられる社会基盤構築の推進に取り組んでいます。まさに女性の工学教育のロールモデルを構築することこそ、今後の工業高校が果たすべき役割であると考えています。



男女共同参画白書 令和3年版より

【女性が工学分野へ進出するメリット】

情報技術の発展に伴い、初めて工学を学ぶ女性にとってのハードルは低くなってきています。また特にIT分野の職業は出産・育児といった多くの女性のライフイベントにも寄り添った働き方がしやすいと考えられます。リモートワークが可能な職場であれば、場所や時間等、ある程度は自分の裁量で仕事を進めることが可能であり、出産・育児休暇後に職場復帰する場合の支障や不安も抑えることができるという側面もあり、女性が工学を学び、職業とするメリットはこのような側面もあるといえます。

参考文献

・「テクノロジーで女性が活躍する社会を目指し、世界に挑む日本のテック系女子中高生たち」

https://www.watch.impress.co.jp/kodomo_it/news/1201834.html

・「令和元年学校基本調査」

https://www.mext.go.jp/content/20191220-mxt_chousa01-000003400_1.pdf

・「男女共同参画白書 令和3年版」

https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r03/zentai/index.html

・「奈良女子大、お茶の水女子大が相次いで工学部を開設する理由」

<https://www.asahi.com/edu/article/14470096>